

# 学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(令和3年8月国立教育政策研究所)」等を参考に作成する。

公民科(科目名) 学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組  
 令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名

◇学習指導要領に示されている各教科の「第2款 各科目」の「2 内容」(以下、「内容」)に示されている資質・能力を育成できるよう、学習内容のまとまりを見だし、単元や題材を設定する。  
 ◇各科目の「内容のまとまり」については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(令和3年8月)」に示されている。  
 ◇地理歴史科及び公民科においては、この「内容のまとまり」を単元とすることが適切と考えられる。

2 単元の目標

◇「内容」を基に、観点ごとに設定する。その際、「内容」に直接示されていない「学びに向かう力、人間性等」については、「目標」を基に設定する。

- 例 (1) 「知識及び技能」に関する目標 (例: ~理解する。~情報を収集し、読み取る。等)  
 (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標  
 (例: ~多面的・多角的に考察し、表現する。等)  
 (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標 (例: ~しようとする。等)

3 単元の評価規準

◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」等を参考に適切に設定する。参考資料の巻末に「内容のまとまりごとの評価規準(例)」が記載されている。  
 ◇「知識・技能」は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に、該当の単元名や題材名を記載し、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。  
 ◇「思考・判断・表現」は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。  
 ◇「主体的に学習に取り組む態度」は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(単元の目標に対して) ~理解している。 ~情報を収集し、読み取っている。 等	(単元の目標に対して) ~多面的・多角的に考察し、表現している。 等	(単元の目標に対して) ~しようとしている。 等

4 指導上の立場 ◇指導者の立場で書く。

- 単元観 ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」(何を学んできたのか、今後どのような学びにつながるのか)も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難易度を確認するとともに、生徒の学習上の課題を把握して書く。
- 生徒観 ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- 指導観 ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

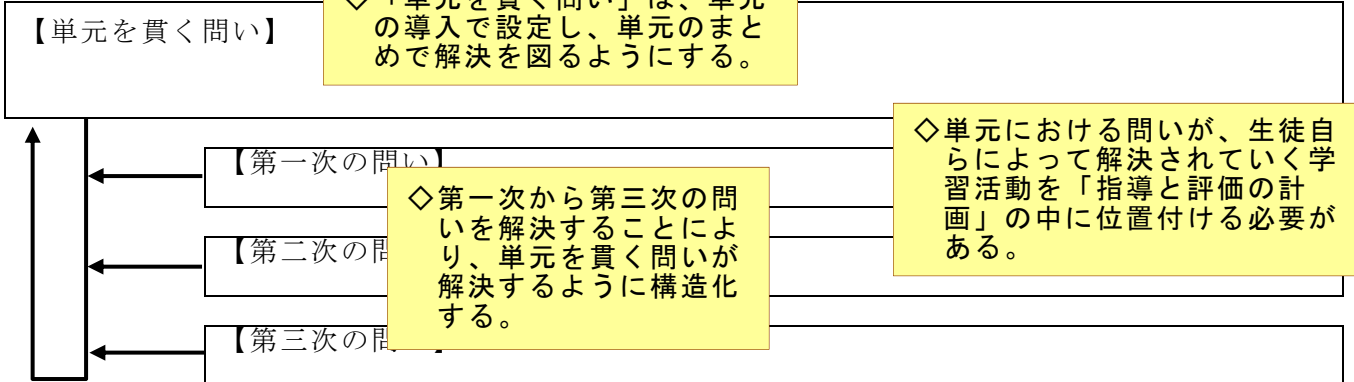
5 指導と評価の計画（全○時間）

(1) 単元の指導計画

第一次「	」	○時間
第二次「	」	○時間
第三次「	」	○時間

◇「内容」に示されている大項目（『公共』における「A 公共の扉」など）を単元とする場合や、中項目（『政治・経済』における「(1) 現代日本における政治・経済の諸課題」など）を分割したり統合したりして単元を設定する場合が考えられる。

(2) 単元における問い



(3) 指導と評価の計画（全○時間）（○・・・「記録に残す評価」、●・・・「指導に生かす評価」）

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準及び評価方法
一	1	◇生徒の立場で書く。			●	○○について問いを見いだしたり、予想したりしようとしている。
	2			●		○○に着目し、□□について多面的・多角的に考察し、表現している。
二			●			○○から□□などを適切に読み取っている。 ○○について理解している。
三						

◇「知」は「知識・技能」、「思」は「思考・判断・表現」、「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。  
 ◇三観点の「○」印は、観点別学習状況の評価を記録に残す場面を示している。「●」は、評価結果を記録として残す必要はないが、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりすることを通して学習改善につなげる場面を示している。  
 ◇「指導に生かす評価」は、授業中における生徒の反応に対して常時心掛ける指導でもあり、また「記録に残す評価」に至るまでの指導であるため、三観点全てにおいて「記録に残す評価」の前に「指導に生かす評価」を位置付ける必要がある。

◇評価基準及び評価方法は、単元の評価基準に照らして、「おおむね満足できる」状況の生徒の様子を記す。

◇「記録に残す評価」の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1	◇生徒の立場で書く。 ◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2	<p>目標</p> <p>◇単元における本時の位置付けを踏まえ、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。                      ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て                      ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て                      ・生徒が学習を深めるための手立て                      ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て                      ・予想される生徒の反応                      ・資料提示のタイミングや方法                      ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等</p> <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。                      ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。                      ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	<p>◇単元を通して資質・能力を育成する力を踏まえ、本時の評価規準を具体的に表現する。評価の場面は1、2箇所絞る。</p> <p>◇評価規準に合わせた観点を明記する。評価方法を具体的に書く。</p>
3		◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
4	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート等必要な準備物を書く。